



地域を支える福祉従事者を育成しています

順正高等看護福祉専門学校の介護福祉学科（平成24年4月開設）では、幅広い年代の学生たちが、介護福祉士の資格取得を目指して日々勉強に励んでいます。中には、学生アルバイトとして福祉施設で働きながら、学校で学んだ知識や技術を、実践を通して統合し、介護に必要な基礎的能力を養っている学生もいます。

本校では、現在、平成25年度入学生を募集中です。所定の科目を履修・単位修得し卒業することで、介護福祉士国家資格が取得できる最後の機会です。

高梁市を支える福祉従事者を目指して、高梁市の福祉を一緒に考えてみませんか。



在学生や教員があなたの入学を待っています

■問い合わせ 順正学園入試広報室 (☎0120-25-9944)

※平成26年度入学生からは、所定の科目を履修・単位修得し、介護福祉士国家試験に合格しなければ、資格が取得できなくなります。

【市内に住むと、市のさまざまな支援制度が活用できます】

高梁市私立学校入学奨励金

⇒入学金として当該私立学校に支払った額に相当する額が支給されます。

高梁市介護福祉養成奨学金貸付制度

⇒介護福祉士を養成し、地域福祉の向上を図ることを目的として、奨学金の貸付を行い、介護福祉士資格取得のための修学を支援します。

【入学試験について】

今後の入試は、2/22～3/11出願期間の一般Ⅲ期入試（1科目選択制）や、面談と書類選考による専願制AO入試を年度内まで実施予定となっています。まずはお問い合わせいただき、介護福祉士になって活躍したい人は、この機会にぜひ出願ください。



成羽病院通信

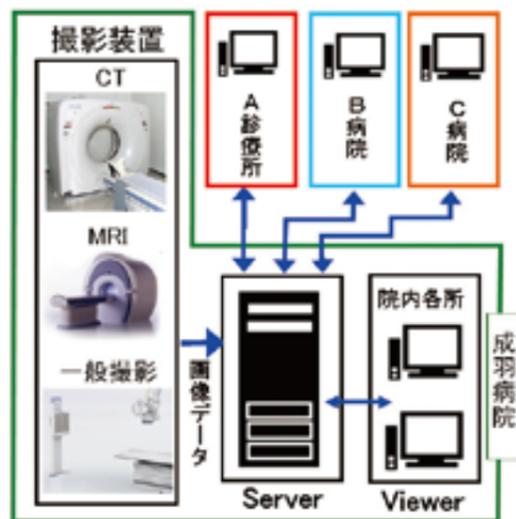
画像のデジタル化 (PACS) とネットワーク

放射線室長 小林 博文

CTやMRIの普及と一般撮影のデジタル化により、フィルムレスが一般化してきています。さらに、装置の高性能化により画像データが膨大な量となり、その上動画データは静止画よりもはるかに膨大な量になります。

この膨大な医用画像データを処理するためにコンピュータが利用され、サーバーと呼ばれる装置に保存されます。デジタル化されれば保存・管理等の効率が向上します。

さらに、これらをネットワーク化すれば遠隔地でも画像を見ることができ、内視鏡や超音波画像なども組み込むことも可能です。そうすれば瞬時にして遠隔地での画像診断が可能になり、より効率的な医療サービスの提供ができるようになります。



■問い合わせ 成羽病院事務局 (☎④3111)



小起伏状の吉備高原と弥高山

氏の在藩所領となり、成羽藩水谷氏（勝隆）の支配となり、のち再び幕府領、そして成羽旗本山崎氏（のち成羽藩）領となつて、幕末を迎えています。大竹村が上大竹村と下大竹村に分かれたのは「川上町史」によると「正保年間（一六四四～四八）に宇根方組・谷方組に分かれ、万治年間（一六五八～六二）に各々、下大竹、上大竹と命名した」とあり、明和三年（一七六六）の「山崎文書」の「御領分村々田畑高之覚」に下大竹村四六六石余、上大竹村七六四石余と記録されています。上大竹、下大竹は標高三〇〇（四五〇）の起伏状の吉備高原上とその窪（谷）地に当たる斜面に集落が分布する地域で、気温も高原上と低地では異なり、起伏の多い地形の特色を表す、日名、陰地、迫、くぼ、畝とか、上、下、谷などの付く、小地名が大変多く見られるのです。東へ流れ出る領家川は、山あいを曲がりくねって流れ（穿入曲流）、または、「はめ込み蛇行」といって、道路も領家川に沿って走り、集落も道路に沿って、「列状村落」状になっています。その領家川に多短谷の小さな川が合流しているのです。上大竹地区の高原上には、神野古くには保屋ともという、すり鉢状の窪地の溶食台地があります。ここは表流水が石灰岩の台地を溶食して、地下水となって吸い込まれるドリー

ネが見られ、吸い込み穴のある凹地が点々とあつて、隣り合ったドリーネが連合して、ウバーレという大きな窪地状の台地となっている珍しいカルスト地形のところなのです。神野は畑作中心の地域で、赤っぽい土砂で被われていて、弥高山から東のこの付近には、川上層（高瀬層）といわれる山砂利層が広がる地域で、地形学でも代表的な場所なのです。神野には、石を祭神にした神山八幡宮があります。祭りには、花笠をかぶって舞う渡り拍子が残されています。この八幡宮を、下大竹の清実八幡宮に観望したと云われ、下大竹の野呂に鎮座している産土神です。下大竹には、地域の人々が城山と呼ぶ、標高三五〇の馬の背の形をした山があります。この山の頂上に池があつて、真ん中に龍王宮を祀っていて、昔から人々はこの山に登って、雨乞いをしていたそうで、今でも年に一度、この池の掃除に集まり、祈禱して祭りをしているようで、この山を古くから大切にしていたのでしよう。城山の名称は「備中兵乱」といって、三村氏の出城、国吉城が東にありました。毛利方が国吉城を攻めて来たとき、三村方が国吉城を守るため、周辺に陣地を築いたときの陣に使った砦の一つなのです。下大竹の高原上になると、西に玄武岩の弥高山（六五三）がそびえ、

北には同じ玄武岩の須志山（五二四）が頭をとがらせ、どちらも玄武岩の残丘といわれています。弥高山は、井原市芳井町を通って北へと登る深い谷の千峰断層の谷が噴火した溶岩で埋められた火山なのです。この「大竹」地区は、全国で珍しい「地形の教室」といわれるところで、天然記念物に指定されている「大賀デッケン（押し被せ構造）」といわれる古生代の石灰岩層が逆転して中世代の層の上になっているという場所や大賀台地の地表水をドリーネから地下水となつて流れ出る「沢柳の滝」（天然記念物）や上大竹の相坪川上流の「藍坪」といわれる県指定の滝坪が四個並んで残っている地質学上、貴重な滝坪があります。地域の人々は、ここで雨乞いをしていたと伝えられ、また猿が滝坪で染物をしていたという伝説も残っています。「大竹」という地名は、上大竹の西にそびえる大岳山（五五〇）の山名から取ったものか、はっきりしませんが、大竹の「竹」は山腹の急傾斜地とか、絶壁・崖など高低のはげしい地形を表す地名で、岳・丈などもそうなのです。また、たぎるから水が激しく流れるという意味もあつて、たぎから変化したとも考えられます。いずれにせよ、この地域らしい地形を表現した自然地名なのです。（文・松前俊洋さん）